



岡山大学 ナノバイオ標的医療の 融合的創出拠点の形成

ICONT (Innovation Center Okayama for Nanobio-targeted Therapy)

岡
大
発

医学・医療の最前線

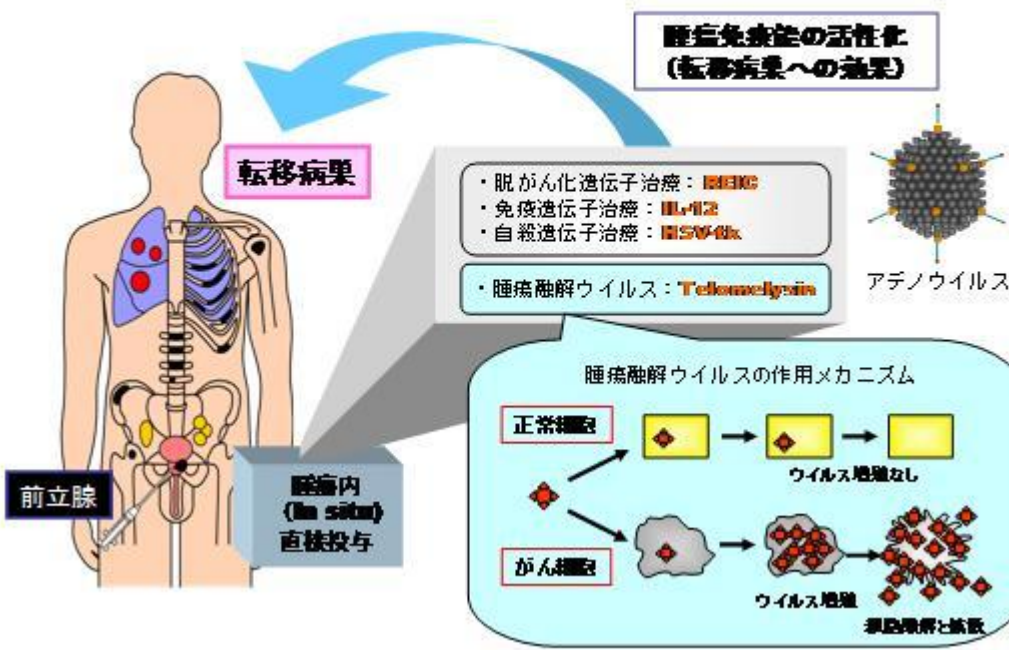
8

がん細胞“溶かす”新戦略

がんに対する革新的標的医療の創造についてシリーズで解説していきます。前回から、私の専門領域である前立腺がんの先端医療の現状についてお話ししています。今回はその3回目として、腫瘍しゅよう融解ウイルスを含めて岡山大学の前立腺

がんに対する革新的標的医療の創造についてシリーズで解説していきます。前回から、私の専門領域である前立腺がんの先端医療の現状についてお話ししています。今回はその3回目として、腫瘍しゅよう融解ウイルスを含めて岡山大学の前立腺

前立腺癌に対する遺伝子治療の戦略 -岡山大学の In situ アプローチ-



がん細胞“溶かす”新戦略

腫瘍融解ウイルスががん細胞に感染、増殖することで直接的に細胞を破壊、死滅させるとともに、増殖したウイルスが周辺のがん細胞にも新たに感染し、腫瘍全体を縮小(融解)させるという戦略です。

この場合、多くの種類のがん細胞で特異的に発現レベルが高いテロメラゼという酵素の

腫瘍融解ウイルスががん細胞に感染、増殖することで直接的に細胞を破壊、死滅させるとともに、増殖したウイルスが周辺のがん細胞にも新たに感染し、腫瘍全体を縮小(融解)させるという戦略です。

腫瘍融解ウイルスががん細胞に感染、増殖することで直接的に細胞を破壊、死滅させるとともに、増殖したウイルスが周辺のがん細胞にも新たに感染し、腫瘍全体を縮小(融解)させるという戦略です。

この場合、多くの種類のがん細胞で特異的に発現レベルが高いテロメラゼという酵素の

腫瘍融解ウイルスががん細胞に感染、増殖することで直接的に細胞を破壊、死滅させるとともに、増殖したウイルスが周辺のがん細胞にも新たに感染し、腫瘍全体を縮小(融解)させるという戦略です。

腫瘍融解ウイルスががん細胞に感染、増殖することで直接的に細胞を破壊、死滅させるとともに、増殖したウイルスが周辺のがん細胞にも新たに感染し、腫瘍全体を縮小(融解)させるという戦略です。

この場合、多くの種類のがん細胞で特異的に発現レベルが高いテロメラゼという酵素の



公文 裕巳 (岡山大学
ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長・
泌尿器科診療学(泌尿器科))